資　料　６－２

重点審議事業

道路事業　事後評価

一般国道121号　会津縦貫北道路（あいづじゅうかんきたどうろ）

令和3年3月1日
国土交通省　東北地方整備局

1. 事業の目的と概要（1）

事業完了後5年経過

○事業目的

- 会津北部の地域間交流等を促進する地域高規格道路
- 国道121号沿線市街地部の交通混雑を緩和
- 会津地方の観光資源の連絡強化による観光振興
- 速達性の確保による救急医療サービスの向上

会津縦貫北道路 計画概要

起終点　：自）福島県喜多方市関柴町
　　至）福島県会津若松市高野町

延長　：１３．１ｋｍ

道路規格　：第１種第３級　設計速度：８０ｋｍ/ｈ

事業化　：平成９年度（直轄権限代行による事業化）

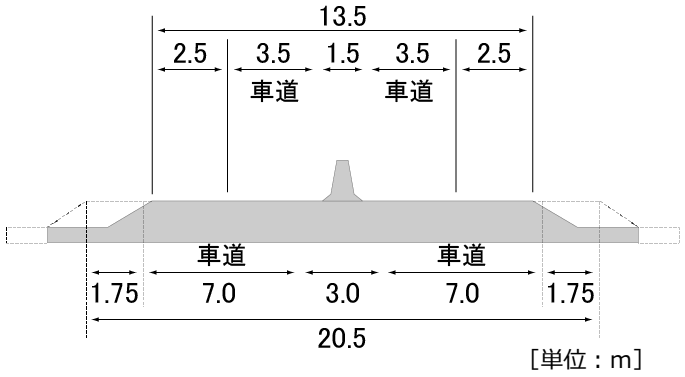
用地着手　：平成１１年度

工事着手　：平成１４年度

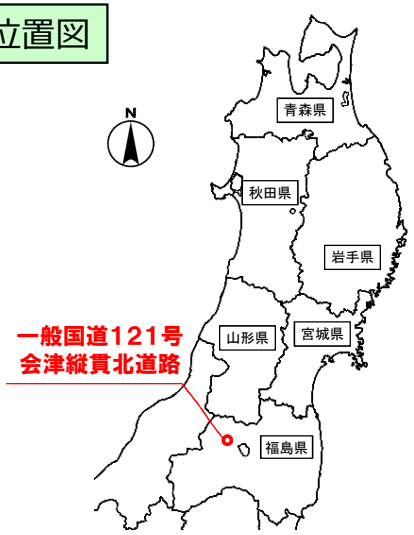
部分開通　：平成２１年１０月４日　塩川IC～湯川北IC
　　（Ｌ＝３．２ｋｍ開通）
　　：平成２３年１１月６日　喜多方IC～塩川IC
　　（Ｌ＝４．７ｋｍ開通）
　　：平成２５年９月８日　湯川北IC～湯川南IC
　　（Ｌ＝２．２ｋｍ開通）

全線開通　：平成２７年９月６日　湯川南IC～会津若松北IC
　　（Ｌ＝３．０ｋｍ開通）
　　（Ｈ２７．９．６）

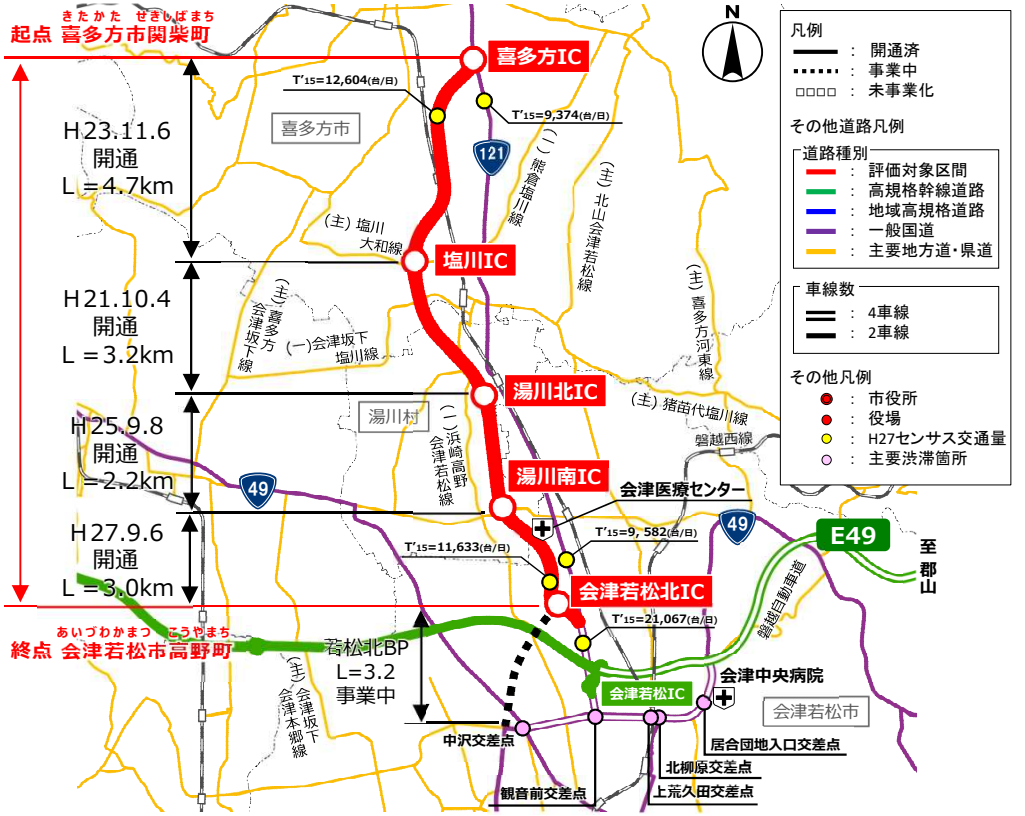
標準横断図 (幅員)



位置図



会津縦貫北道路 位置図



1. 事業の目的と概要（2）整備状況

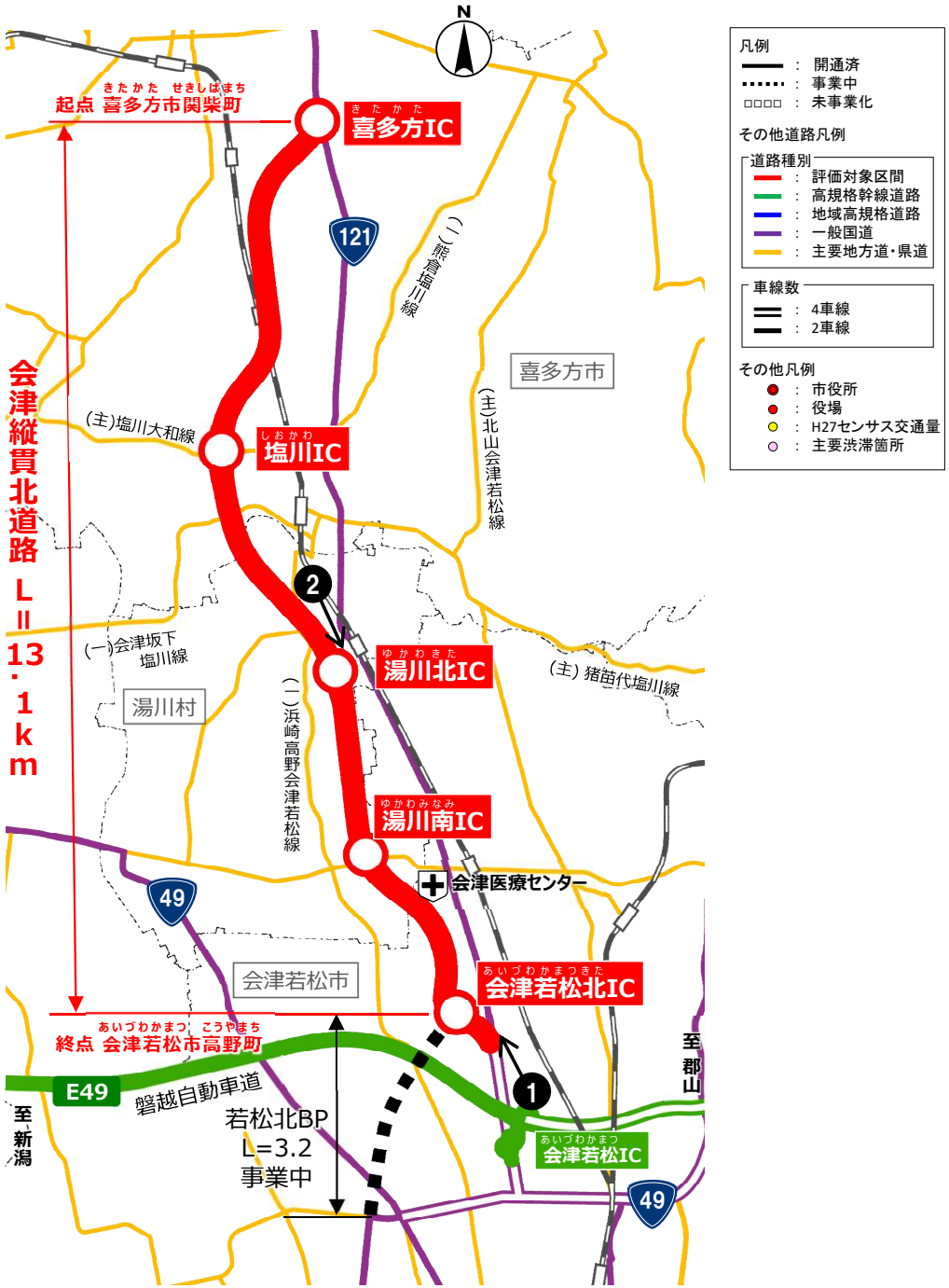
事業完了後5年経過

①上空から見た会津縦貫北道路【H27.9】



② 開通した会津縦貫北道路【R2.12】





1. 事業の目的と概要（3）開通記事

事業完了後5年経過



全線開通した会津縦貫北道路＝会津若松市・会津若松北ＩＣ付近

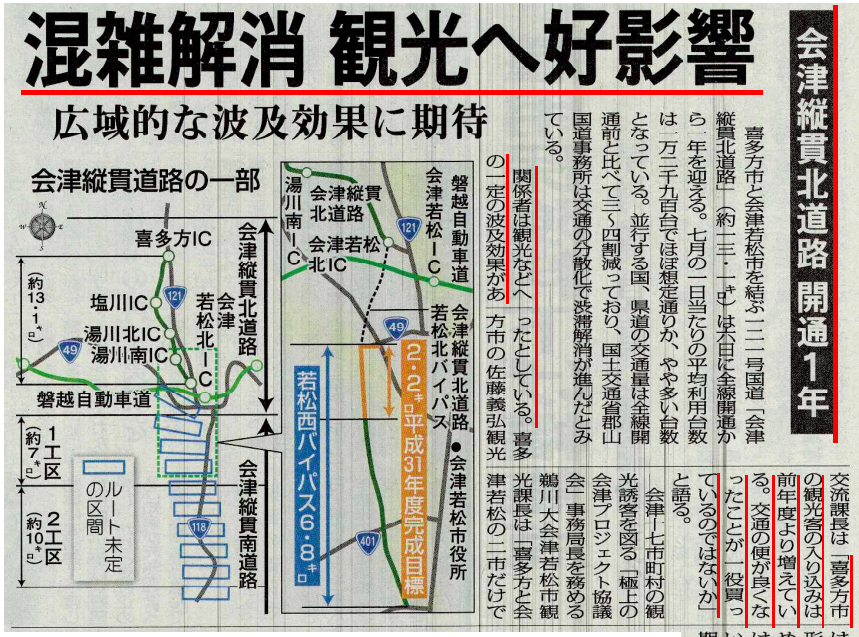
会津縦貫北道路 全線開通

湯川南―会津若松北ＩＣ間 待望の供用開始

二二一号国道会津縦貫北道路の湯川南―会津若松北インターチェンジ（ＩＣ）間（三・〇キロ）は六日、供用を開始した。これにより会津若松、喜多方両市を結ぶ会津縦貫北道路（一三・一キロ）が全線開通した。（26面に関連記事）

開通式は湯川村の湯川南ＩＣ付近で行われ、内堀雅雄知事、室井照平会津若松市長、湯川北ＩＣ間、二十三年に喜多方―塩川ＩＣ間、二十五年に湯川北―湯川南ＩＣ間が開通した。

出典：福島民報　平成27年9月7日掲載



会津縦貫北道路 開通1年

混雑解消 観光へ好影響

広域的な波及効果に期待

会津縦貫道路の一部

喜多方市と会津若松市を結ぶ二二一号国道「会津縦貫北道路」（約一三・一キロ）は六日に全線開通から一年を迎える。七月の一日当たりの平均利用台数は一万二千九百台でほぼ想定通りか、やや多い台数となっている。並行する国、県道の交通量は全線開通前と比べて三～四割減っており、国土交通省郡山国道事務所は交通の分散化で渋滞解消が進んだとみている。

関係者は観光などへ一定の波及効果があったとしている。喜多方市の佐藤義弘観光交流課長は「喜多方市はなく、会津全域や山形県米沢市なども含め、広域的な観光に向けて調査事業を進めている」と今後の展開に期待する。

会津―七市町村の観光誘客を図る「極上の会津プロジェクト協議会」事務局長を務める鶴川大会津若松市観光課長は「喜多方と会津若松の二市だけでの観光客の入り込みは前年度より増えている。交通の便が良くなったことが一役買っているのではないか」と語る。

会津縦貫北道路は自動車専用道路で、地域高規格道路。今年度は同道路と会津縦貫南道路をつなぐ「若松北バイパス」が新規事業として化され、南道路も一部の工事区間で完成見通しが示されるなど、会津縦貫道路の交通要所の整備が着々と進められている。

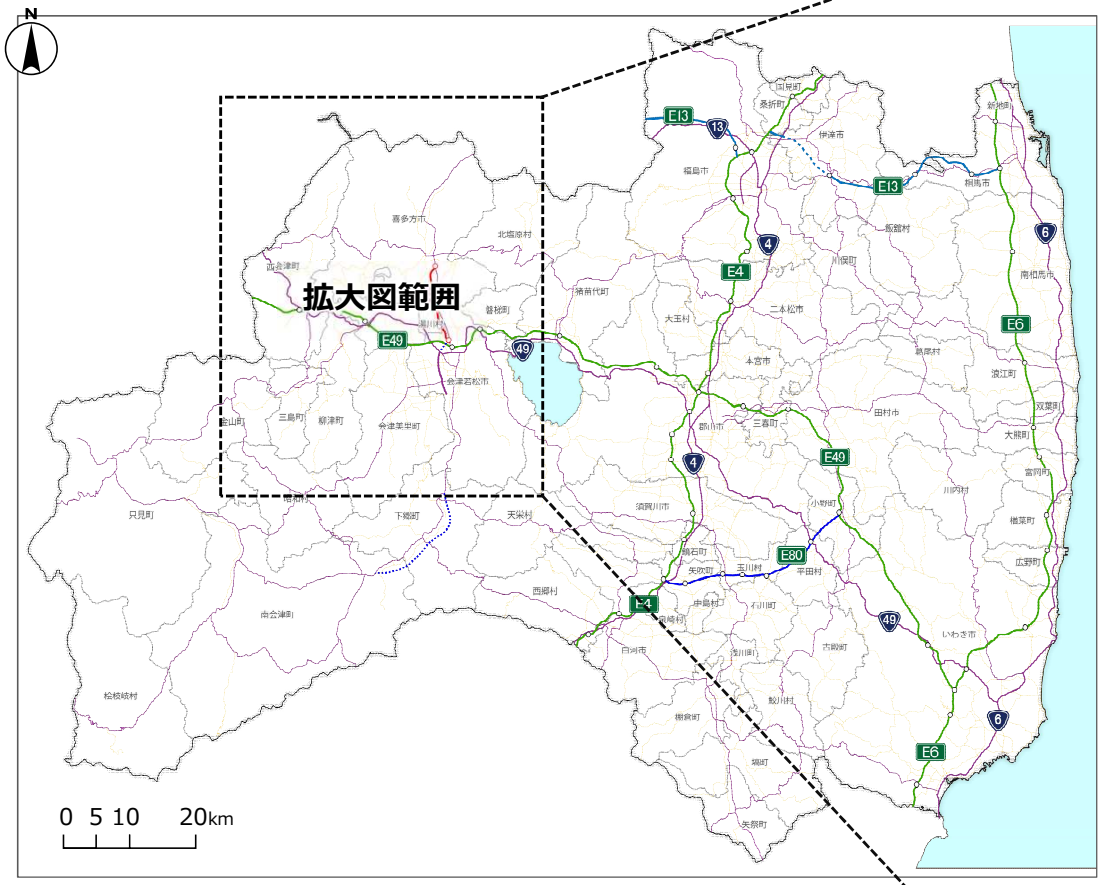
出典：福島民報　平成28年9月6日掲載

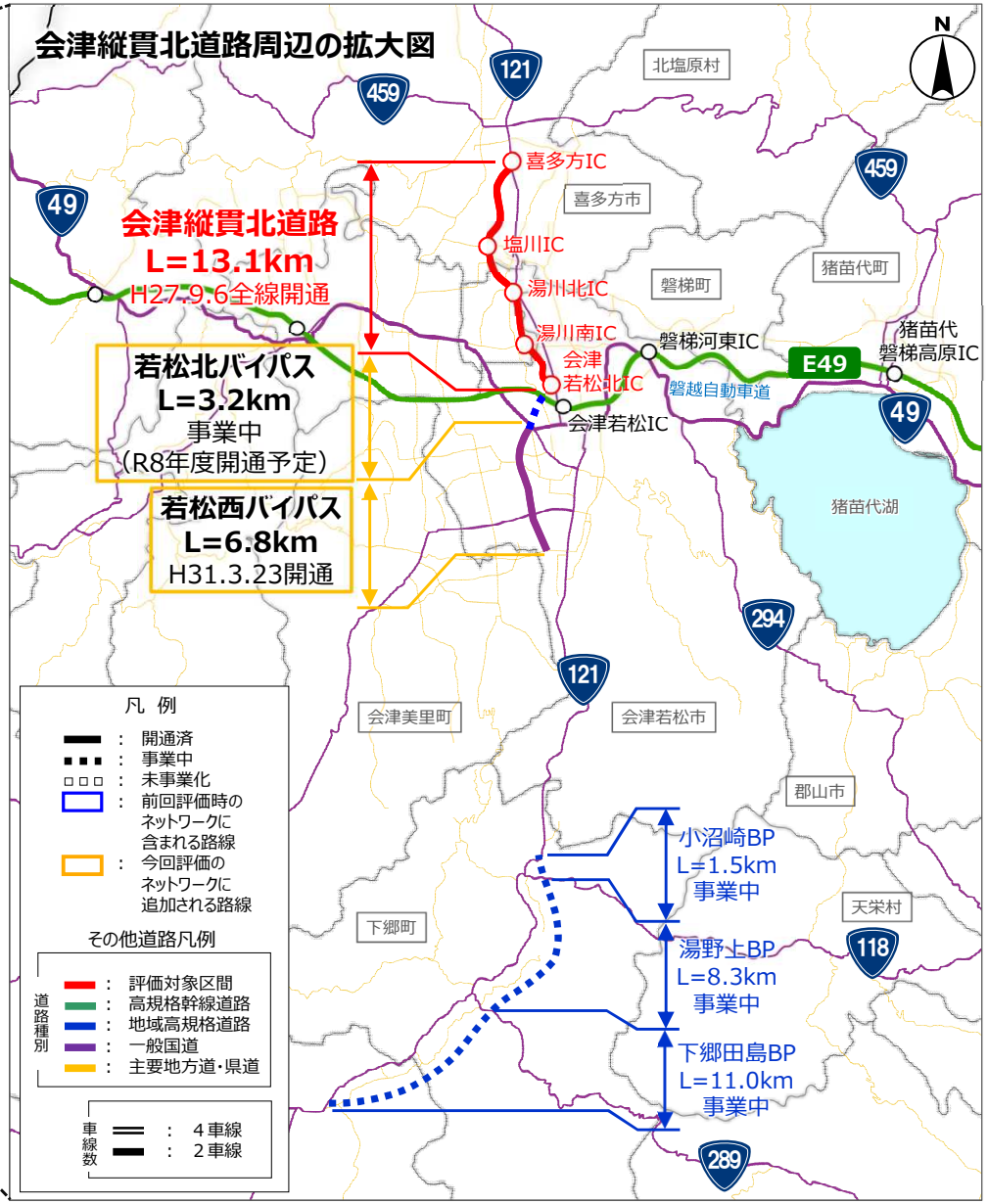
2. 前回評価時からの周辺環境等の変化

事業完了後5年経過

◆一般国道121号 会津縦貫北道路は平成27年9月4工区が開通し、全線開通。
◆周辺では、若松北バイパスが平成28年4月に整備区間に指定、若松西バイパスが平成31年3月に開通。

福島県全体

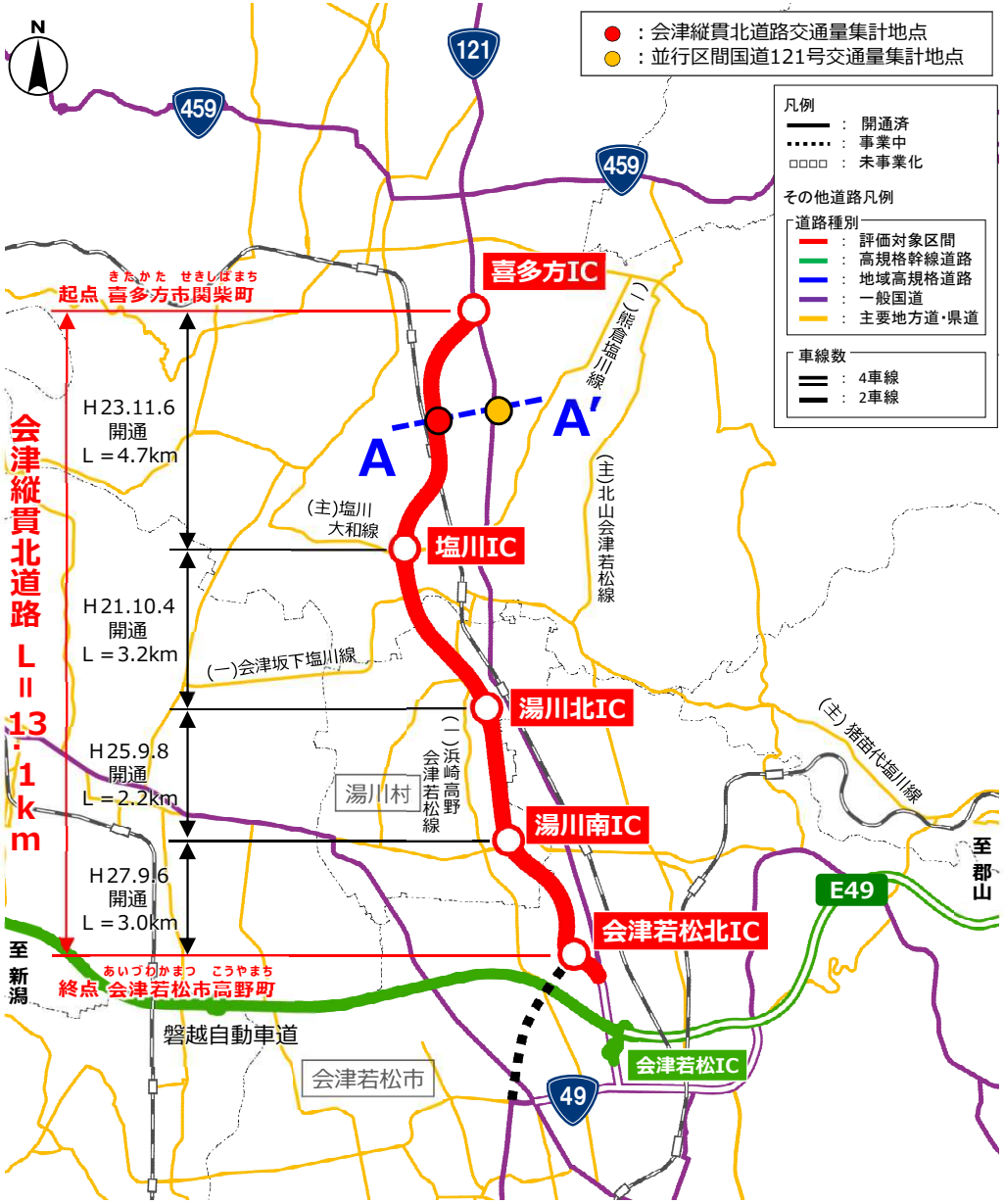




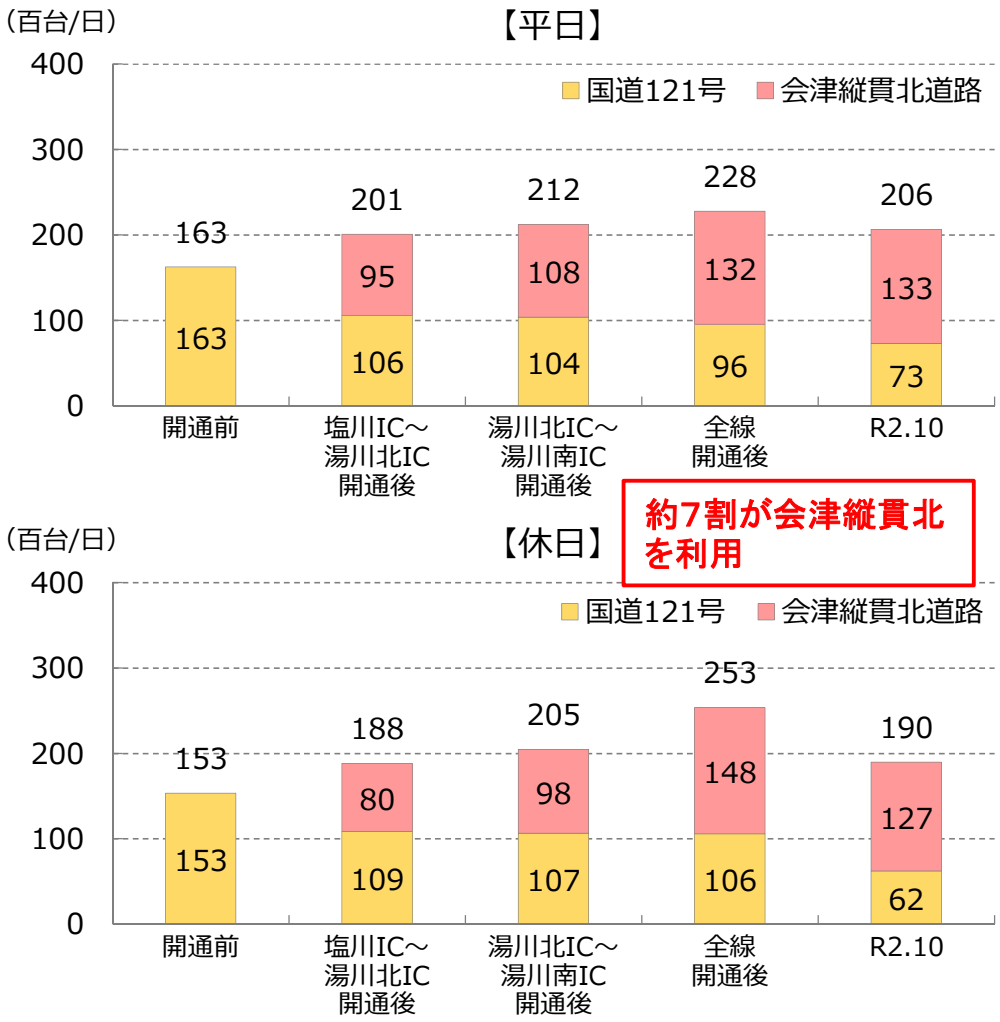
3. 交通状況の変化等（1）交通量

事業完了後5年経過

◆平成27年の全線開通により、会津縦貫北道路の交通量は平日228百台/日、休日は253百台/日に増加（喜多方IC～塩川IC間）。
◆会津縦貫北道路の最新の交通量は平日で133百台/日、休日で127百台/日（喜多方IC～塩川IC間）。



▼交通量の推移（A-A'断面）



約7割が会津縦貫北を利用

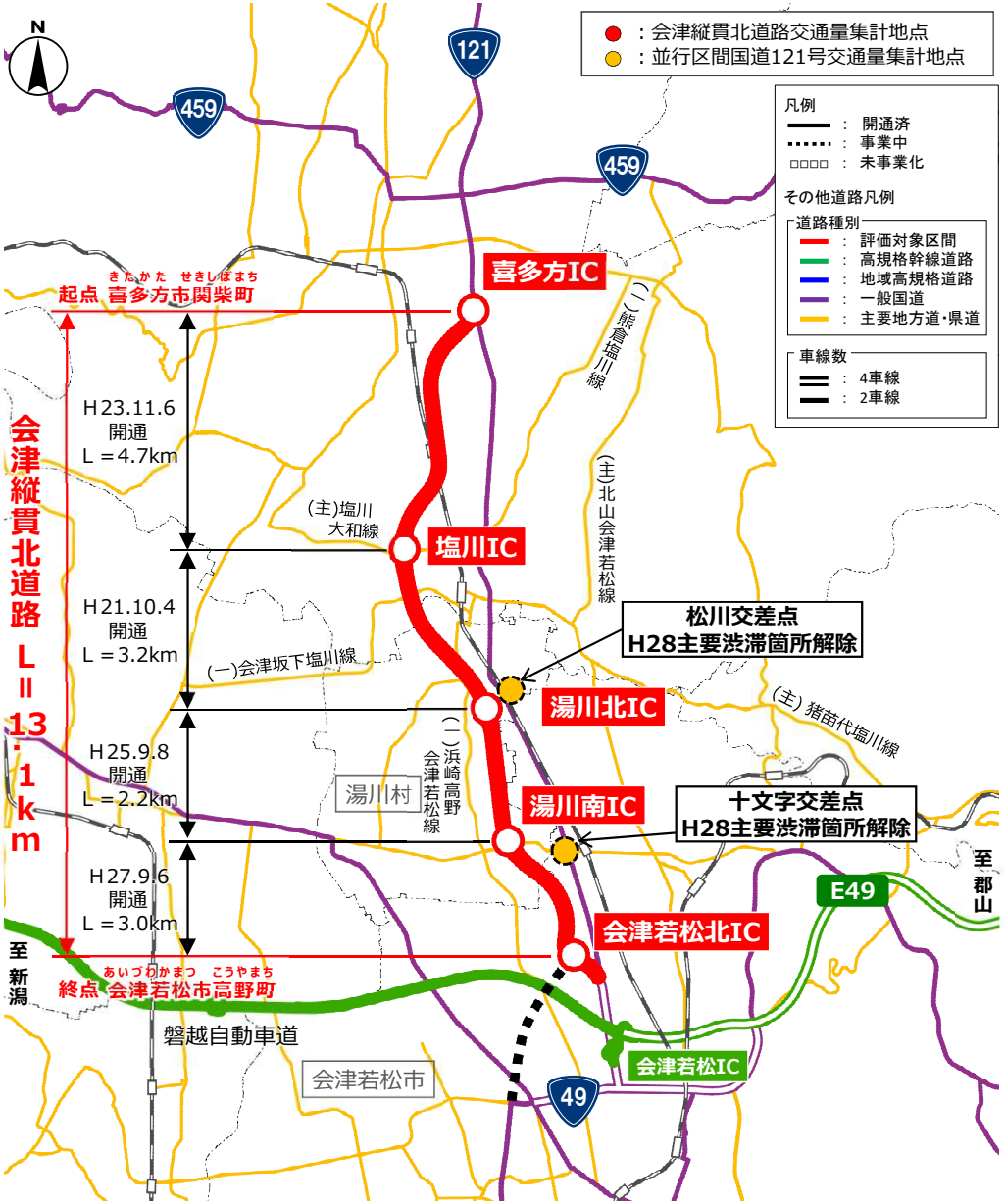
資料：交通量調査結果

開通前	：平日：H23.10.27（水）	休日：H23.10.30（日）
塩川IC～湯川北IC開通後	：平日：H24.11.21（水）	休日：H24.11. 4（日）
湯川北IC～湯川南IC開通後	：平日：H26. 9.11（水）	休日：H26.11. 1（日）
全線開通後	：平日：H28. 9.27（水）	休日：H28. 5. 3（日）
R2.10	：平日：R2.10月平日平均	休日：R2.10月休日平均

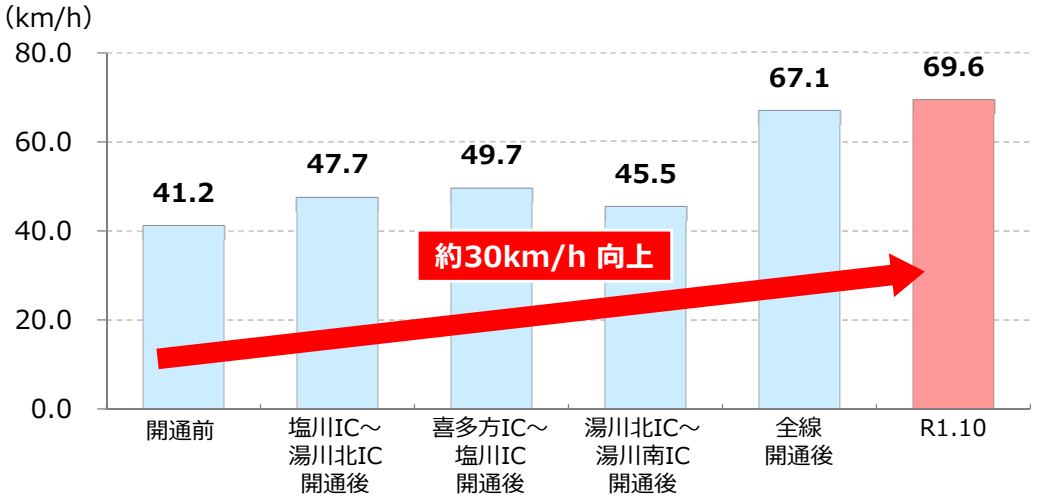
3. 交通状況の変化等（2）所要時間等

事業完了後5年経過

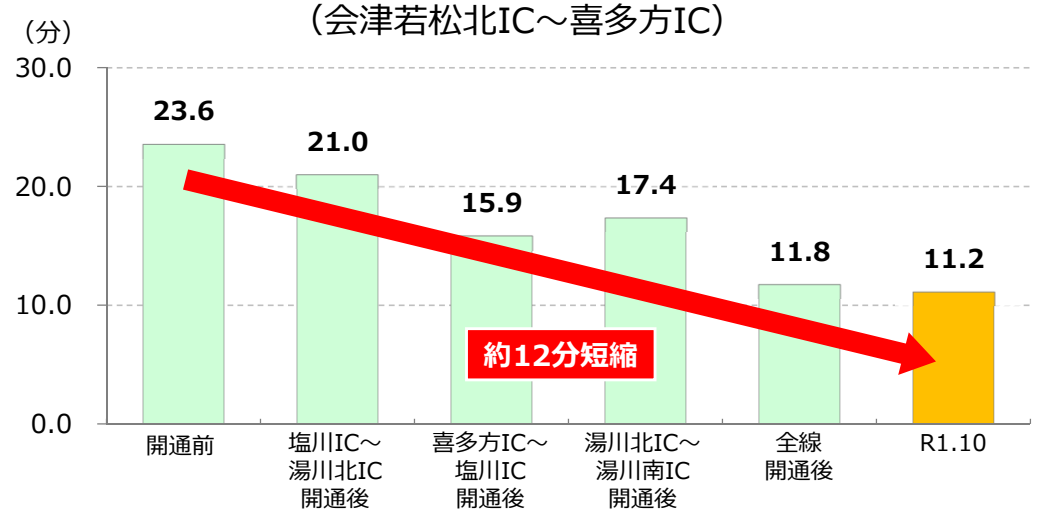
◆会津縦貫北道路を利用することで、整備区間の平均速度が約30km/h向上し、所要時間が約12分短縮。
◆現道区間の主要渋滞箇所2箇所も全線開通後の平成28年度に解除。



▼会津縦貫北道路区間の平均速度の変化
（会津若松北IC～喜多方IC）



▼会津縦貫北道路区間の所要時間の変化
（会津若松北IC～喜多方IC）

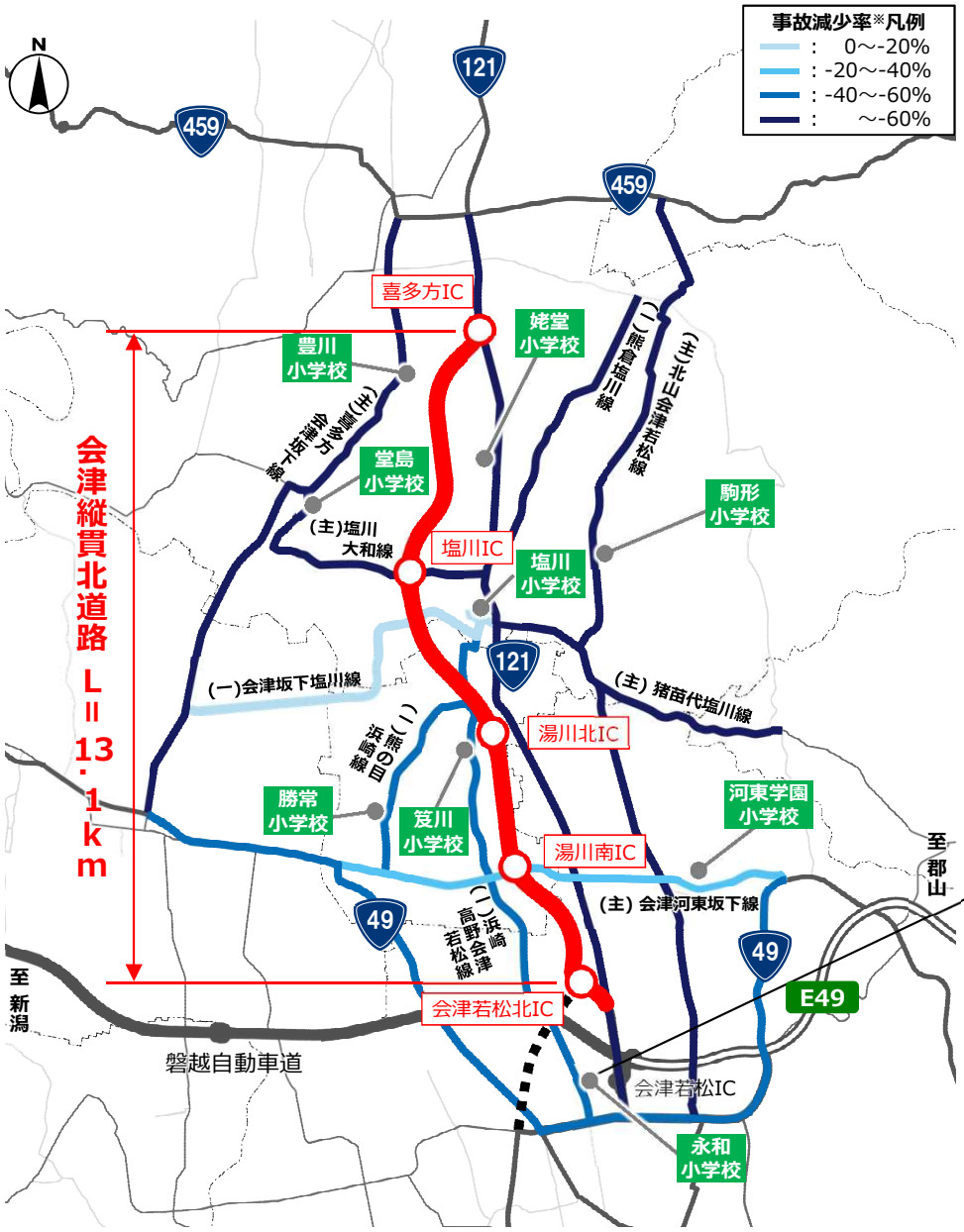


資料：全国道路・街路交通情勢調査（H17～H27）平日混雑時
ETC2.0プローブデータ（R1.10平日）平日混雑時（7時台、17時台上下平均）

4. 事業効果の発現状況 （1）交通安全の確保

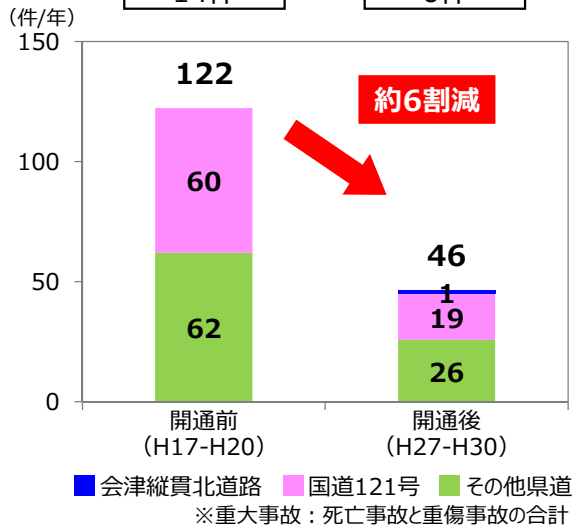
事業完了後5年経過

◆会津縦貫北道路の開通で、交通が会津縦貫北道路へ転換したことで、周辺道路の交通事故発生件数は約6割減少
◆周辺には多数の小学校が存在するが、現道、生活道路の交通量が減少したことにより、安心・安全な通学環境の確保に寄与



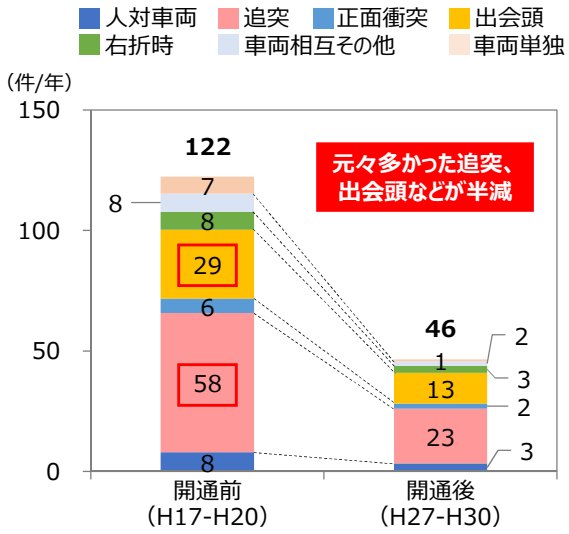
※事故減少率は開通前（H17-H20）事故件数に対する、開通後（H27-H30）事故件数の減少率を示す

▼会津縦貫北道路開通前後の年平均死傷事故件数の変化



※重大事故：死亡事故と重傷事故の合計

▼会津縦貫北道路開通前後の事故類型の変化



出典：H17-H20イタルダデータ、H27-H30イタルダデータ
その他県道：北山会津若松線、熊倉塩川線、猪苗代塩川線、喜多方会津坂下線、塩川山都線、会津坂下塩川線
熊の目浜崎線、浜崎高野会津若松線、会津坂下河東線

現道の交通量減少で通学路の横断が安全に



＜永和小学校の声＞

■バスで通学している児童が小学校前の県道の横断歩道（信号機なし）を利用している。
■下校時に横断歩道を渡る際、以前は交通量が多く横断時には危険と感じていたが、開通後は交通量が減り、**安全に横断しやすくなりました。**

（H27.12ヒアリング結果）

＜塩川小学校の声＞

■会津縦貫北道路の開通により、国道121号を含む一般道の交通量が減少し、**児童のヒヤリハットが少なくなりました。**

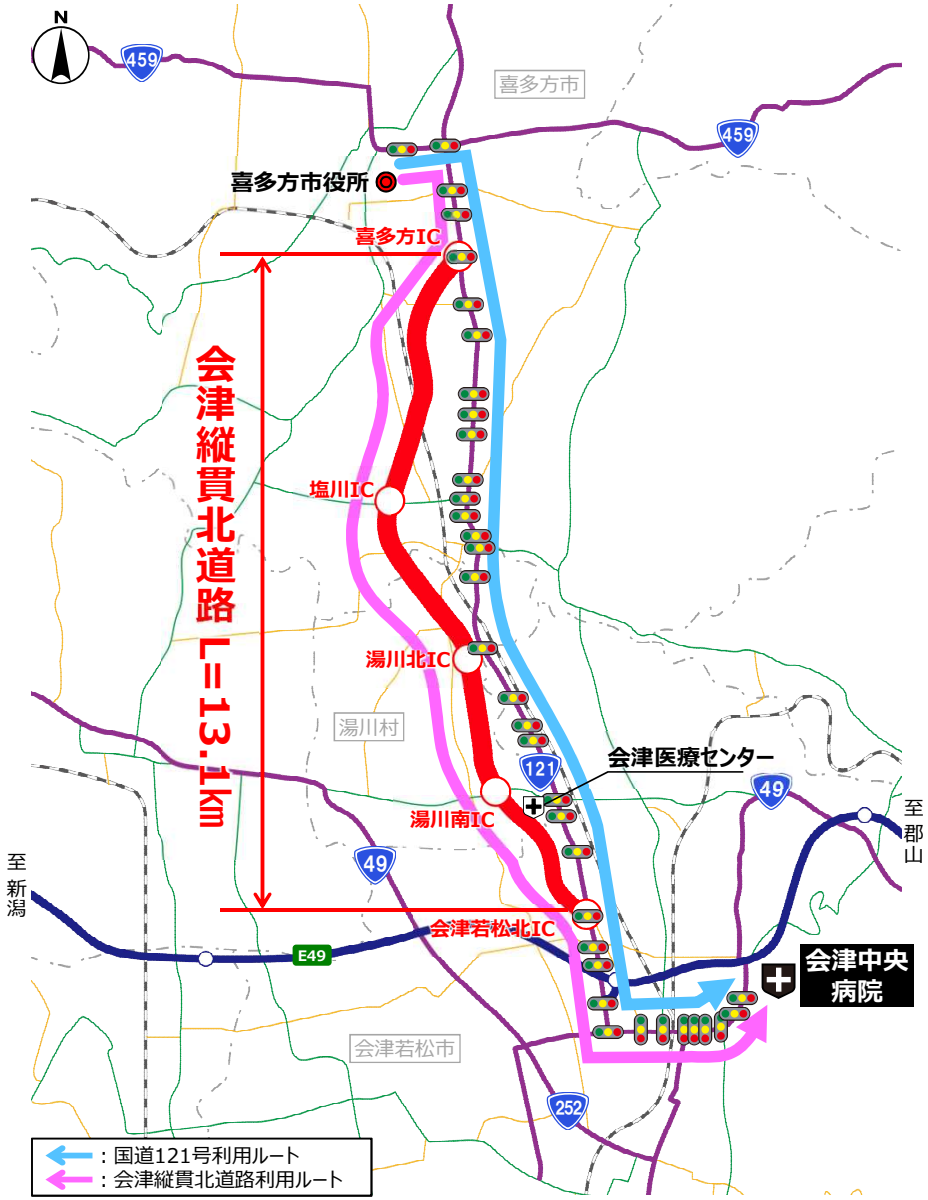
（R2.9ヒアリング結果）

4. 事業効果の発現状況 （2）救急医療活動の支援

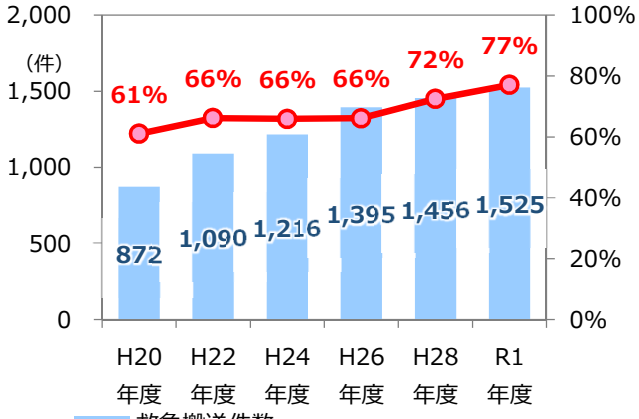
事業完了後5年経過

◆喜多方市では、人員不足により救急を受け入れる病院が減少していることから会津若松市内の病院への搬送が増加
◆会津縦貫道路は、喜多方市から会津若松市内の病院の迅速な搬送、搬送間の安全な処置の実施に寄与

▼会津縦貫北道路を救急搬送ルートとして利用するエリア



▼喜多方市からの会津若松市内病院への救急搬送件数の推移

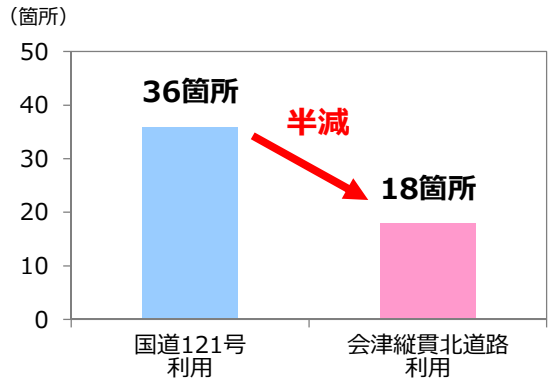


出典：喜多方市消防本部

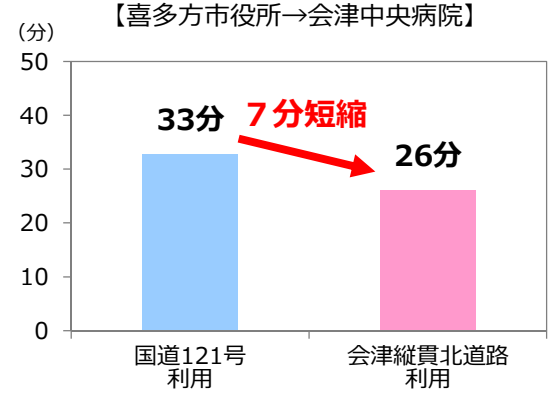
▼会津縦貫北道路を走行する救急車



▼信号交差点数の変化
【喜多方市役所→会津中央病院】



▼所要時間の変化
【喜多方市役所→会津中央病院】



出典：ETC2.0プローブデータ（R1.10平日）12時間平均

＜喜多方地方広域市町村圏組合消防本部の声＞

■コロナ禍では、個人感染防護の装備や、患者に感染の疑いがないか確認が必要となり、収容までに時間がかかるようになっている。そのようななかで、会津縦貫北道路による**時間短縮は助かっています**。

■近年、医師しかできなかった注射等、高度な作業である特定行為を搬送員も出来るようになりました。会津縦貫北道路は信号もなく走行環境が良いため**急停車が減り、搬送中も安全に活動できる**ようになり助かっています。（R2.9ヒアリング結果）

4. 事業効果の発現状況 （3）観光周遊の活性化による観光振興

事業完了後5年経過

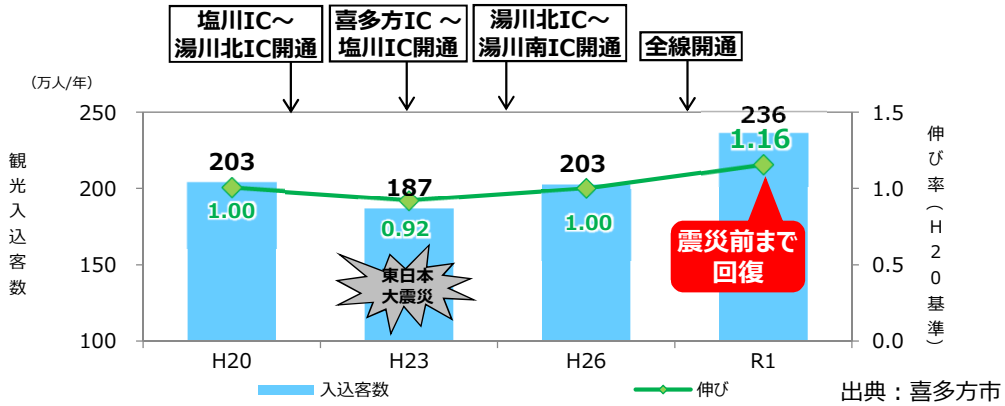
◆会津縦貫北道路の開通により、会津（あいづ）地域の観光周遊が活性化し、喜多方（きたかた）市の観光入込客数は増加
◆会津縦貫北道路は、インバウンドの周遊にも利用されており、地域の観光消費額も増加するなど観光振興に寄与

▼会津地域の主要観光地



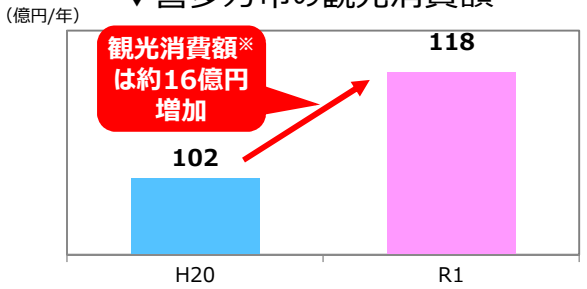
出典：R1観光入込客数：福島県観光客入込状況
インバウンド周遊状況：株式会社ナイトレイ「ジョルテGPSデータ」

▼喜多方市の観光入込客数の推移



出典：喜多方市

▼喜多方市の観光消費額



※観光消費額＝（観光入込客数）×
（1人当たり福島県内日帰り旅行者観光消費額単価（H27））

出典：福島県企画調整部

＜喜多方市観光交流課の声＞
■市としても周遊観光客を増やしたいと考えており、日帰り客が増加しているのは、会津縦貫北道路開通による**時間短縮が効いている**と感じている。（R2.9ヒアリング結果）

＜喜多方老麺会代表者の声＞
■**来客は震災の影響で落ち込んだが、縦貫北の開通に伴い増加**しています。連休になると関東からの来訪も多く、皆さん「喜多方ラーメン」を主目的に来訪されているようです。（R2.9ヒアリング結果）

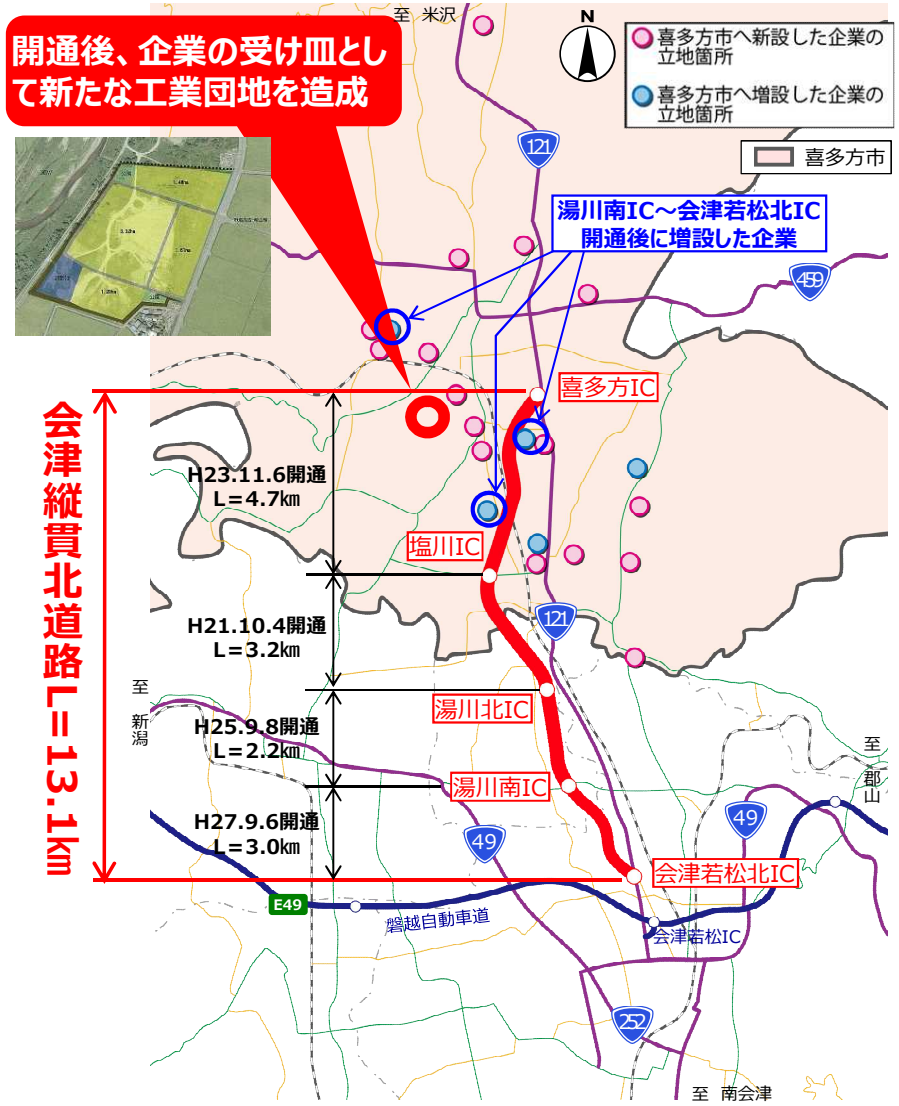
＜喜多方市街地に訪れた観光客の声＞
■観光周遊がスムーズになり、**時間に余裕ができた**ので他の観光地へも足を伸ばせるようになりました。（R2.9ヒアリング結果）

4. 事業効果の発現状況 （4）企業立地による新たな雇用の創出

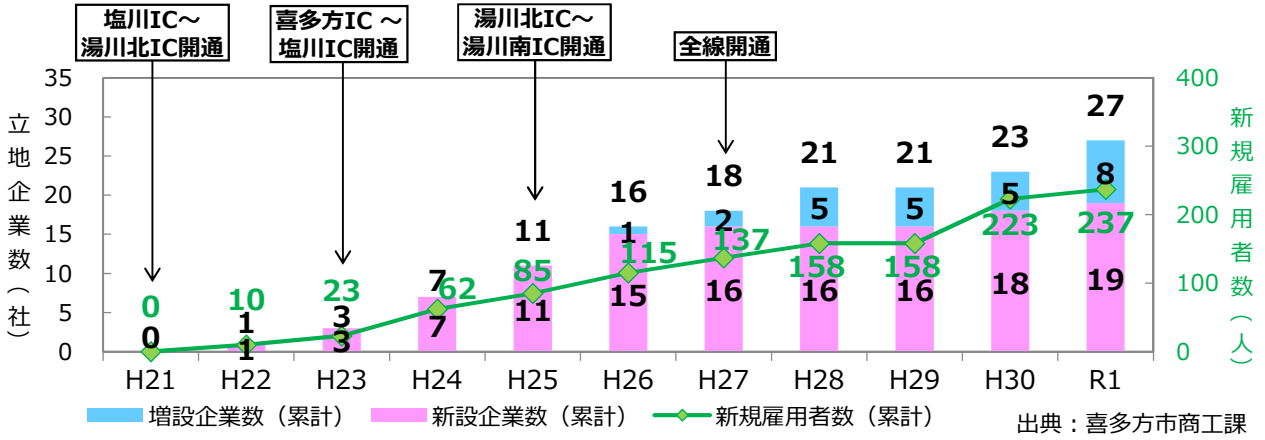
事業完了後5年経過

◆会津縦貫北道路の順次供用に伴い、H21年以降、喜多方市では事業所・工場が27件新設・増設
◆喜多方市では企業の受け皿として新たな工業団地を造成し、既に複数の事業所の立地が決定
◆新たな雇用を創出し、地域の有効求人倍率も全国平均以上の伸びで回復

▼喜多方市へ新増設した企業の立地状況（H21～R1）

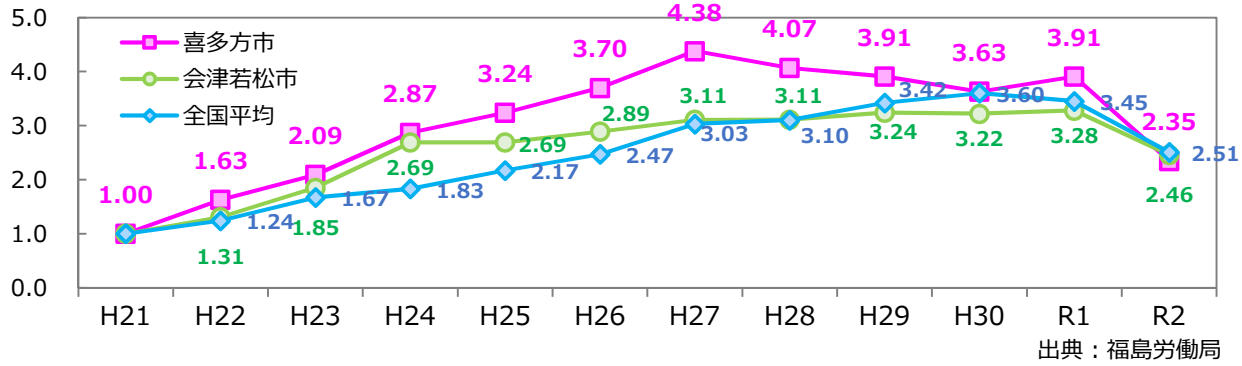


▼喜多方市へ新増設した企業数・新規雇用者数の推移（累計値）



出典：喜多方市商工課

▼会津縦貫北道路沿線の年度別有効求人倍率の伸び率の推移（H21基準）



出典：福島労働局

＜喜多方市商工課の声＞

■高速で走れる道路、ICが市内にあるということは企業誘致上、重要なことであり、新たな工業団地のPRパンフレットでも**道路やICからのアクセス時間をPR**しています。

■昨年度に引き渡しを開始し、既に2社に引き渡しており、造成工事を進めたいと考えています。

（R2.9ヒアリング結果）

＜喜多方市に進出した企業の声＞

■**会津縦貫北道路の開通もこの地に進出した理由の一つ**です。実際、移動時間も読めるし、安全に走行でき、会津若松市内の関連会社への移動も助かっています。

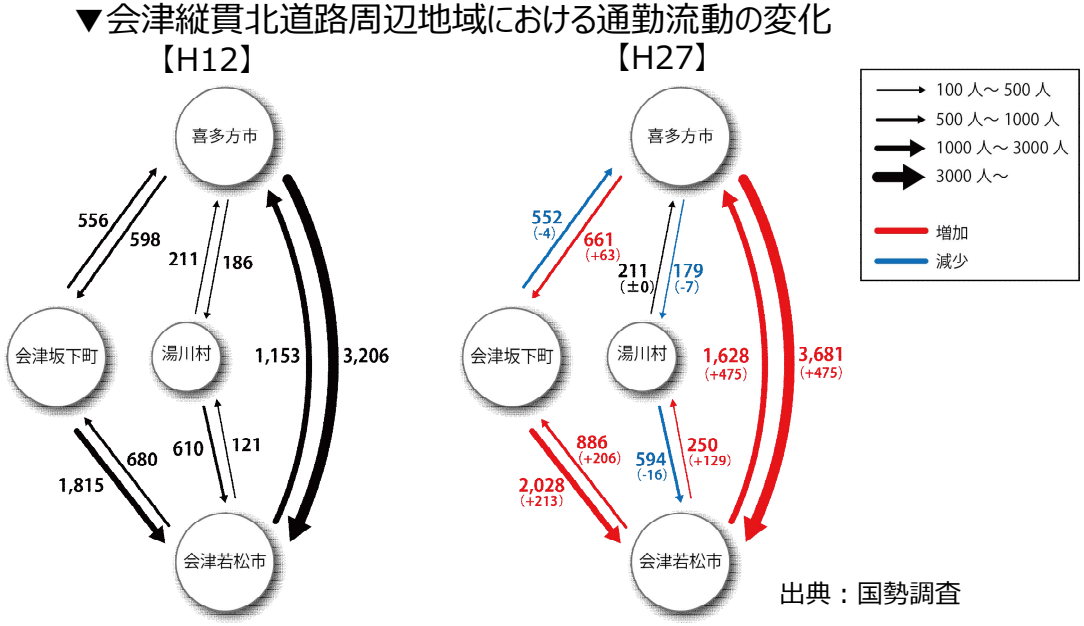
（H27.2アリング結果）

4. 事業効果の発現状況 （5）地域間流動の活性化

事業完了後5年経過

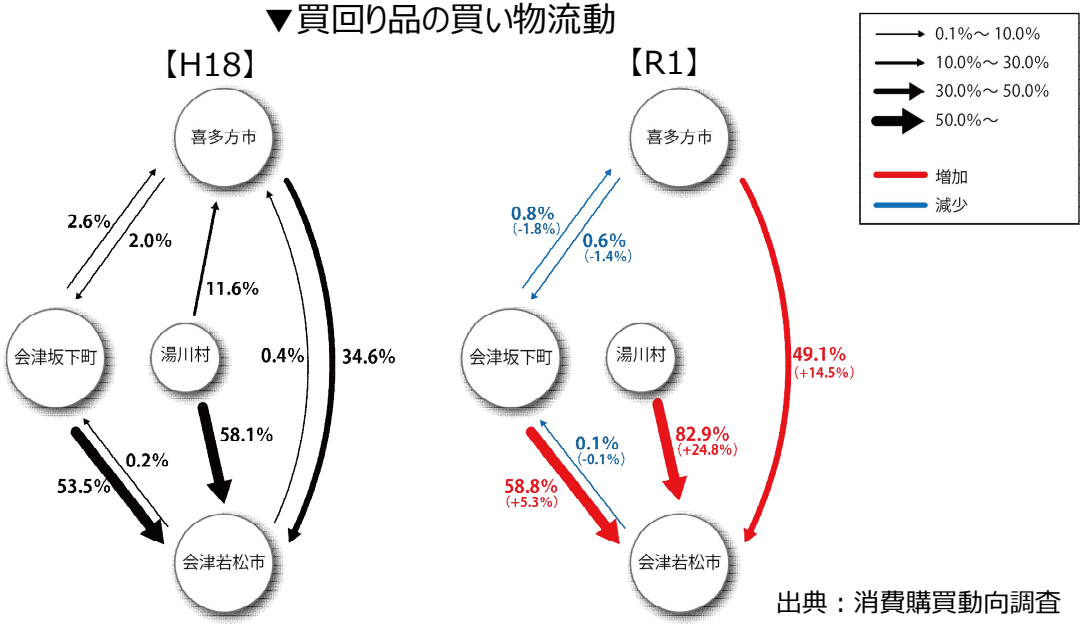
◆会津縦貫北道路の開通により、周辺地域では仕事場の選択肢が広がり通勤流動が増加し、会津若松市への買い物機会も増加
◆喜多方市から会津若松市内の病院への通院者数が増加しており、高水準な医療サービスを享受しやすくなっている
◆また、会津縦貫北道路を利用することで一般道を走るより燃費を抑えることができ、地方で生活する上での一助となっている

▼会津縦貫北道路周辺地域における通勤流動の変化



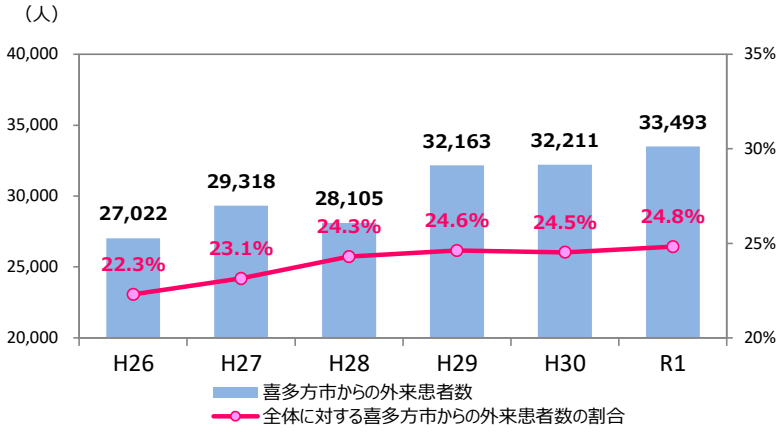
出典：国勢調査

▼買回り品の買い物流動



出典：消費購買動向調査

▼会津医療センター（会津若松市）における
喜多方市からの外来患者数の推移



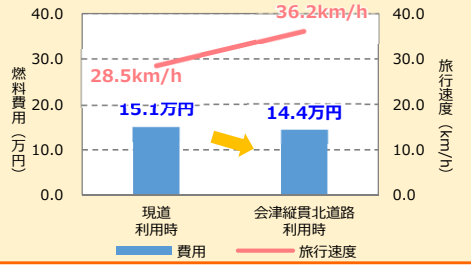
出典：会津医療センター

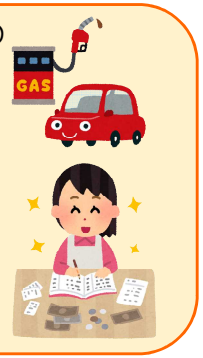
【燃料費用の低減効果試算】
通勤などで喜多方市～会津若松市間を乗用車で
往復する場合、ガソリン代を7,000円/年節約可能。
両市間の通勤者だけでも**3,700万円/年の燃料費削減**。

・現道国道121号利用時：15.1万円/年
・会津縦貫北道路利用時：14.4万円/年

出典：H27全国道路・街路交通情勢調査 混雑時旅行速度
国土技術政策総合研究所資料「自動車排出係数の根拠」

▼喜多方市～会津若松市間移動時の
平均旅行速度と燃料費用





＜地域住民の声＞
■会津縦貫北道路が開通したことで、仕事終わりなどでも、**会津若松市に気軽に買い物をしに行きやすくなりました。**
■子どもの部活で、会津若松市との学校との交流試合などにも行きやすくなりました。（R2.9ヒアリング結果）

＜会津医療センターの声＞
■会津縦貫北開通により**移動の負担が軽減**したことで、喜多方市からの患者が増加しています。
（R2.9ヒアリング結果）

5. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

別添一覧表参照

6. 事業実施による環境の変化

評価対象区間については、工事の実施及び完成後も環境への影響は確認されていない。

7. 社会経済情勢の変化

○周辺道路の整備状況

平成31年3月　若松西バイパス　開通

令和8年度　　若松北バイパス　開通予定（事業中）

8. 今後の事後評価及び改善措置の必要性

事業の目的に対する効果を概ね発現しており、現時点では今後の事後評価及び改善措置の必要性はないが、社会情勢の変化に応じて完成形の整備を検討する。

9. 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

当該事業の整備目的について、効果発現を確認出来ており、事業評価手法の見直しの必要はない。